

学生・企業の接続において長期インターンシップが与える効果についての検討会

大学に対する アンケート調査結果

大学に対するアンケート調査結果

趣旨

学生・企業の接続において長期インターンシップが与える効果の検証を得るため、文部科学省と（独）日本学生支援機構が協力して実施している「大学等のインターンシップ届出制度」に登録を行っている大学を対象に、以下の要領で調査を実施。

1. 主な調査事項

【基本項目】

- 大学の種別
- 設置学部等の分野系統
- 大学所在地
- 大学の規模（人数）

【インターンシップの運営等】

- 日数別インターンシップの参加割合
- 参加による学修行動の変化の把握（文系・理系）
- 教育課程に位置づけられた5日以上インターンシップの開催の有無
- 上記インターンシップ実施時の工夫
- 上記インターンシップ実施上の課題
- インターンシップ参加支援プログラムの有無
- 学生から寄せられる相談内容

【今後のインターンシップへの意見】

- 教育的効果の高いインターンシップの内容（文系・理系）
- 望ましいインターンシップの実施時期
- 望ましいインターンシップの期間
- インターンシップの今後の方向性
- 回答者のインターンシップに関する考え

2. 調査期間

令和2年2月3日（月）～2月29日（土）

3. 有効回答数

105大学

※調査に当たっては、大学全体を俯瞰して調査への回答を依頼。

調査項目の設計（大学）

回答者属性の確認

- 1 学校種別
- 2 設置している学部の分野系統
- 3 所在地（選択制）
- 4 大学の規模

参加の状況・効果

- 5 期間別の参加者の割合
- 6 学修行動の変化

～5日未満のインターンシップ

5日～1か月未満のインターンシップ

1か月～のインターンシップ

6X 5日以上の
インターンシップの実施

7 5日以上のインターンシップで
工夫している点

8 左記のインターンシップの運
営上の課題

無：Q9へ

9 インターンシップ参加
支援のプログラム

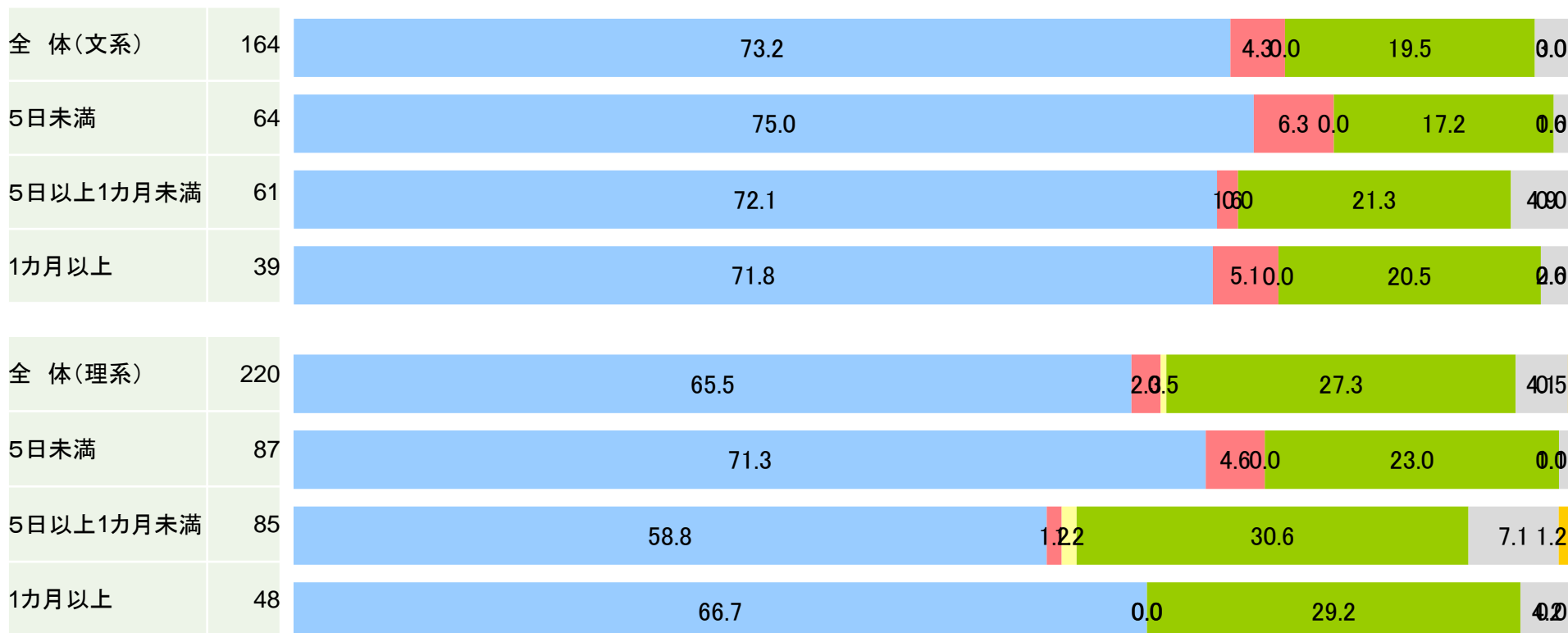
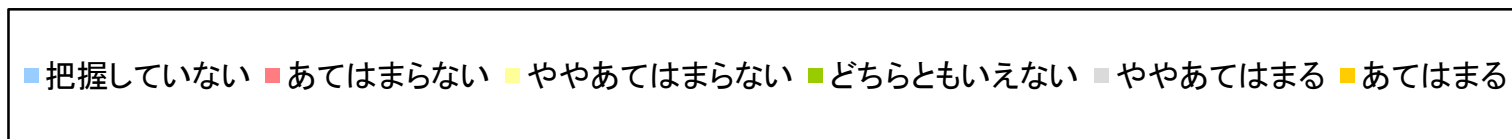
10 学生からの相談内容

今後のインターンシップの運営

- 11 教育的効果の高いインターン
シップの内容
- 12 望ましいインターンシッ
プの参加開始時期
- 13 インターンシップの
望ましい参加期間
- 14 今後重点を置く方向性
- 15 アンケート記入者
- 16 記入者の考え

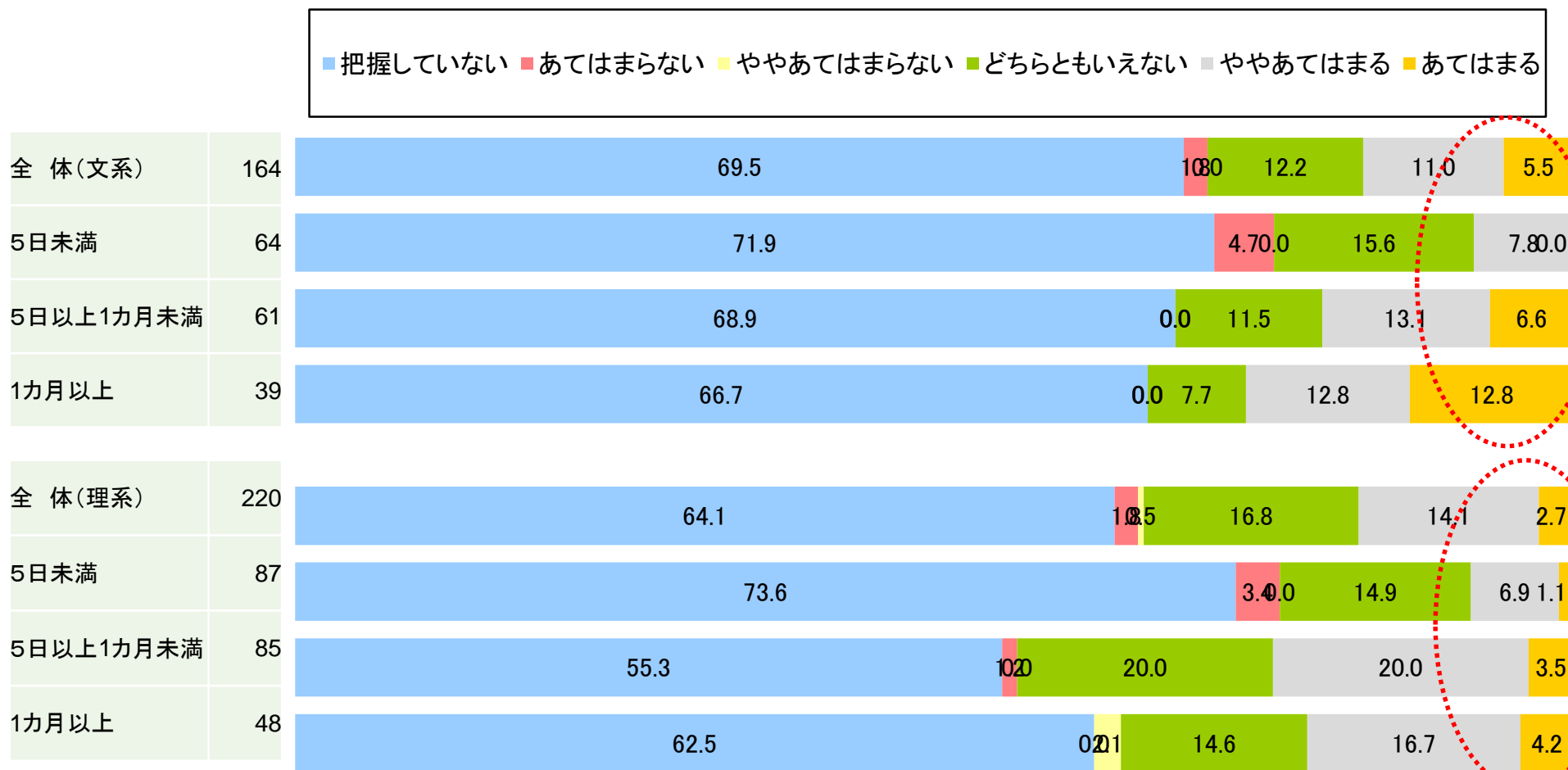
学修行動／出席日数の増加

- 大学は、把握していないという回答が多数であった。



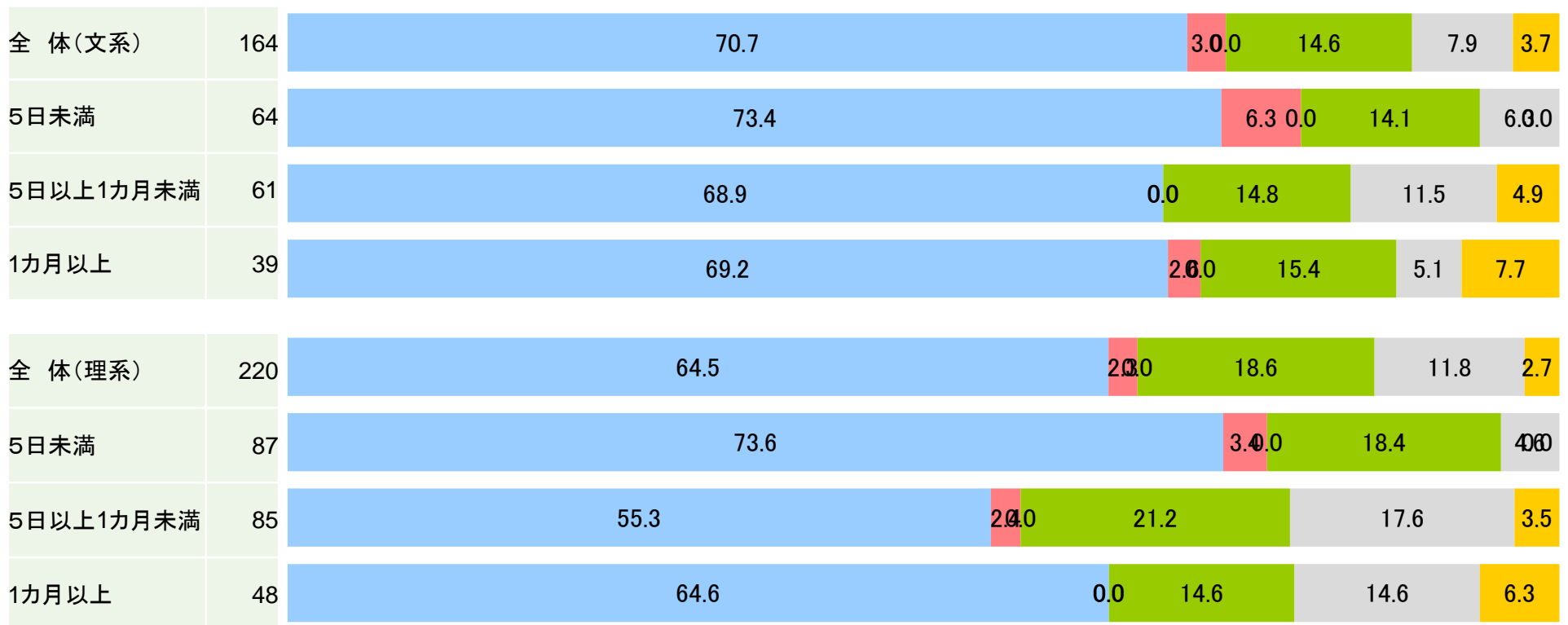
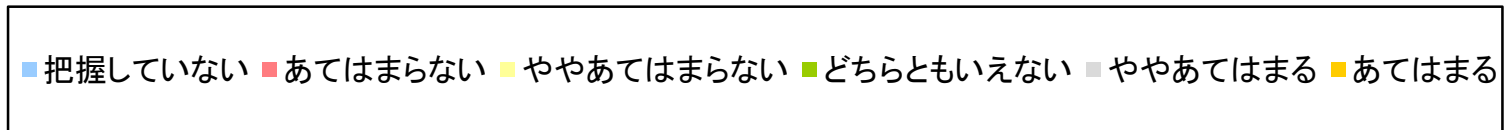
学修行動／興味関心のある内容に対する学習時間が増えた

- 把握していないという回答が多数であったが、把握している大学の中では、文系は日数が長くなるほど興味関心のある内容に対する学習時間が増えたという回答もあった。



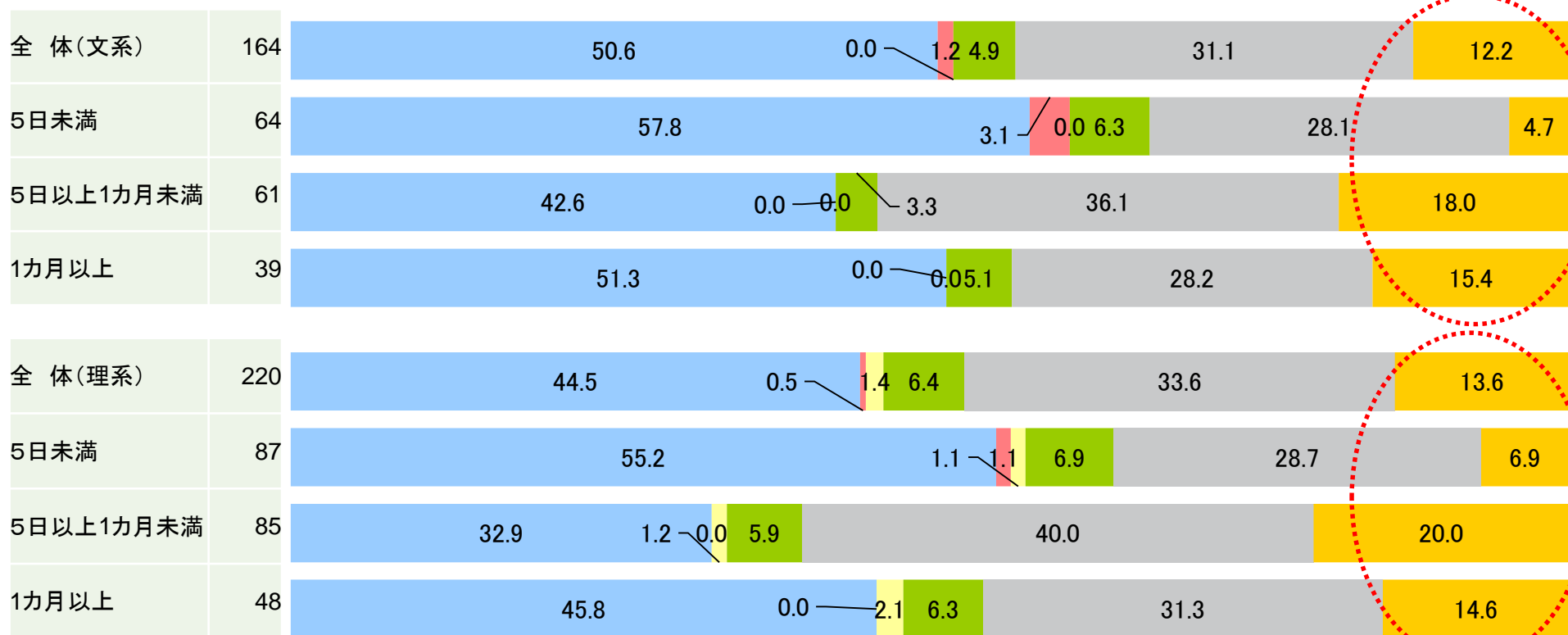
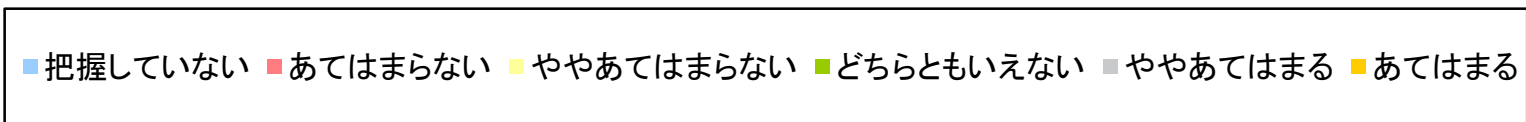
学修行動／大学外での学修行動が増えた

- 大学は、把握していないという回答が多数であった。



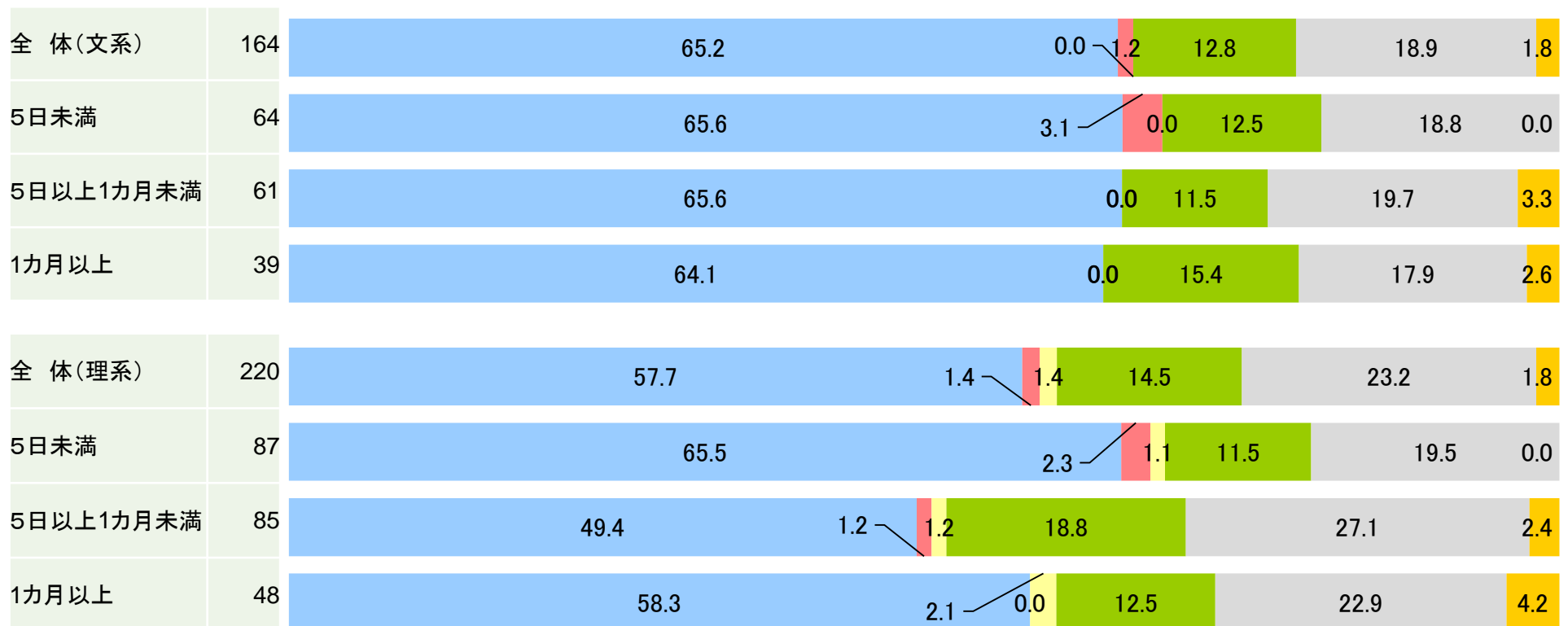
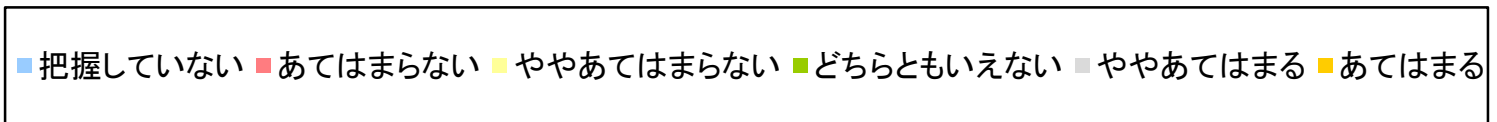
学修行動／企業をはじめとした社会の仕組みへの関心が高まった

- 文系・理系双方とも、日数が長くなるほど社会の仕組みへの関心が高まっていた。



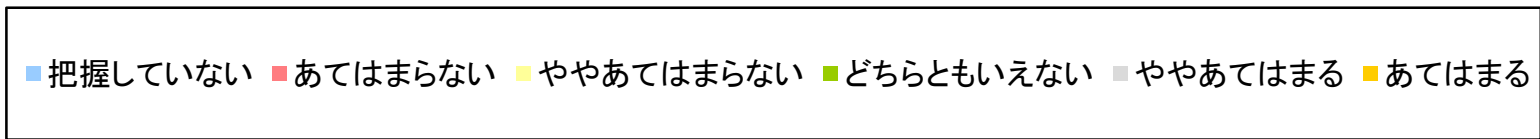
学修行動／時事問題などに関する情報を見る時間の増加

- 大学は、把握していないという回答が多数であった。



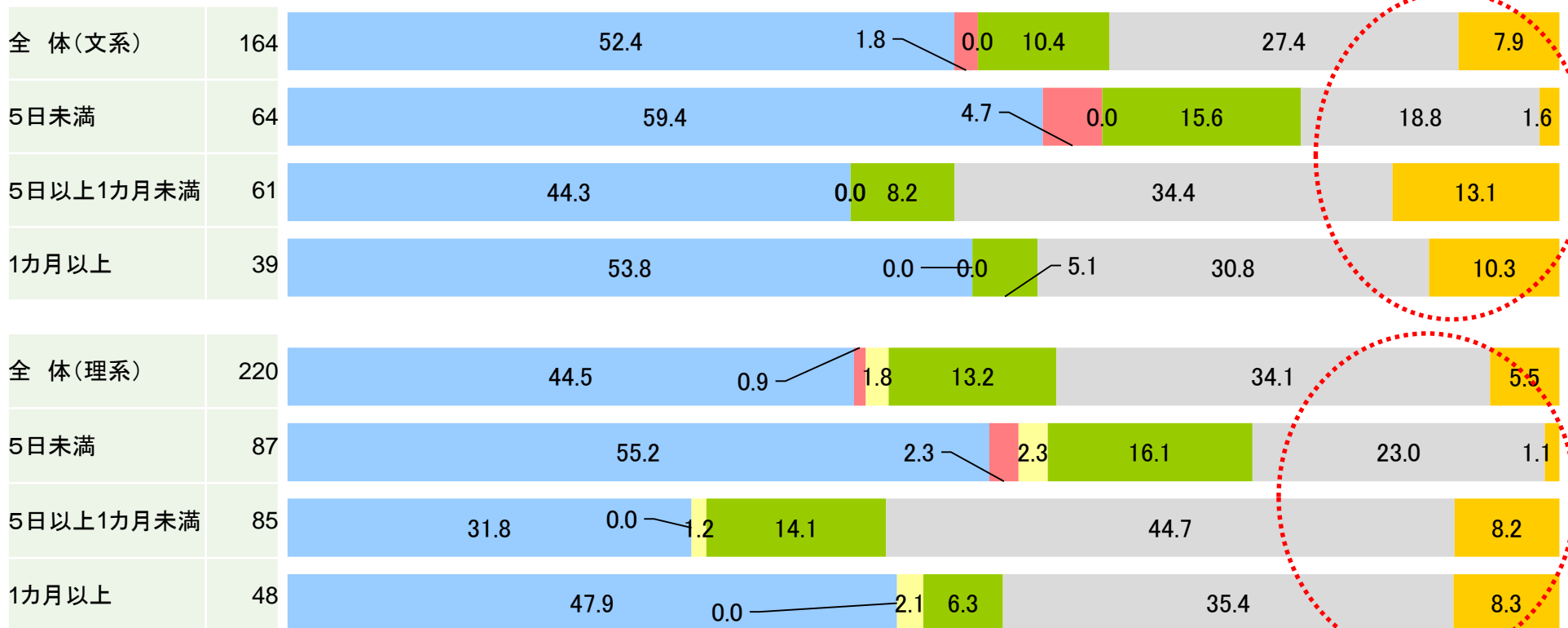
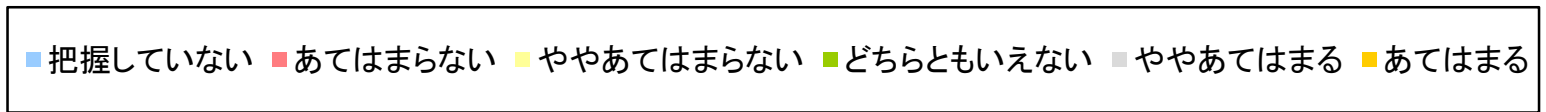
学修行動／社会人などとの交流機会の増加

- 大学は、把握していないという回答が多数であった。



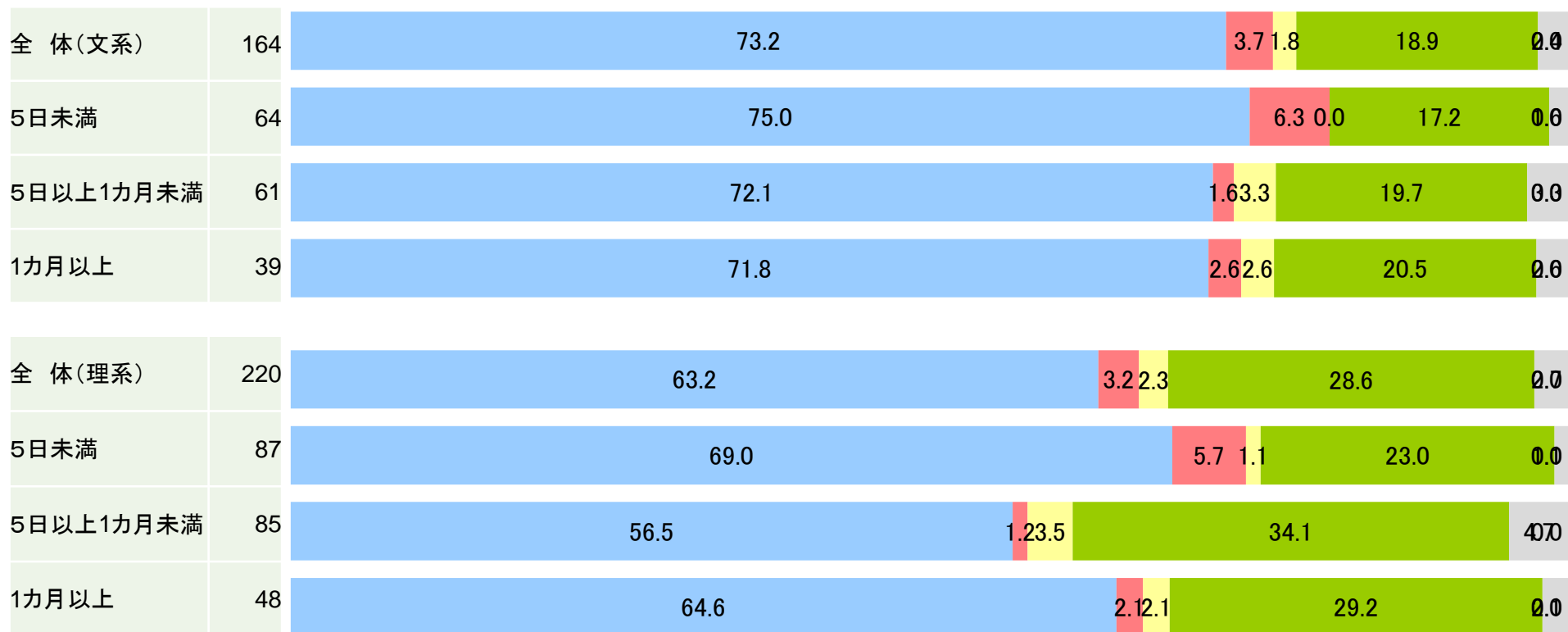
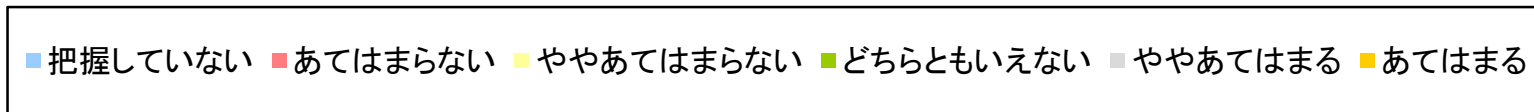
学修行動／自らのキャリア観が明確になった

- 把握していないという回答が多数であったが、把握している大学の中では、文系・理系双方とも、日数が長くなるほど自らのキャリア感が明確になったという回答もあった。



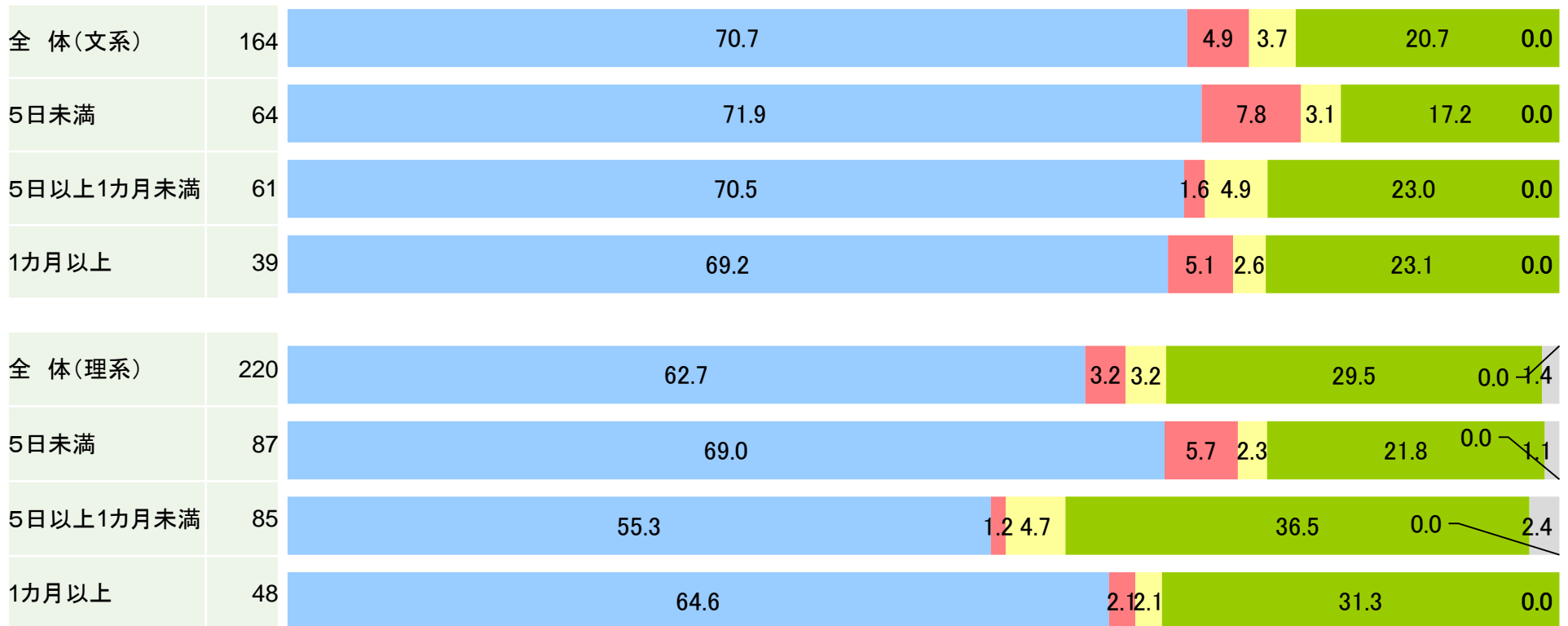
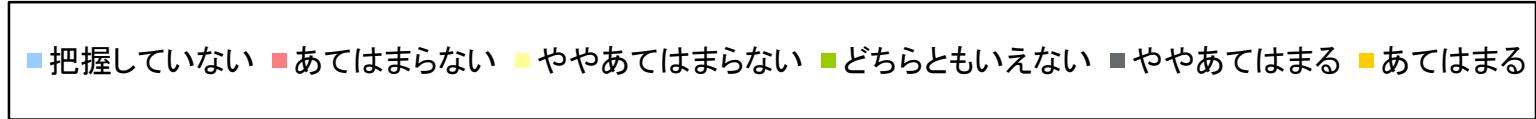
学修行動／クラブ活動もしくはサークル活動への参加時間が増えた

- 大学は、把握していないという回答が多数であった。



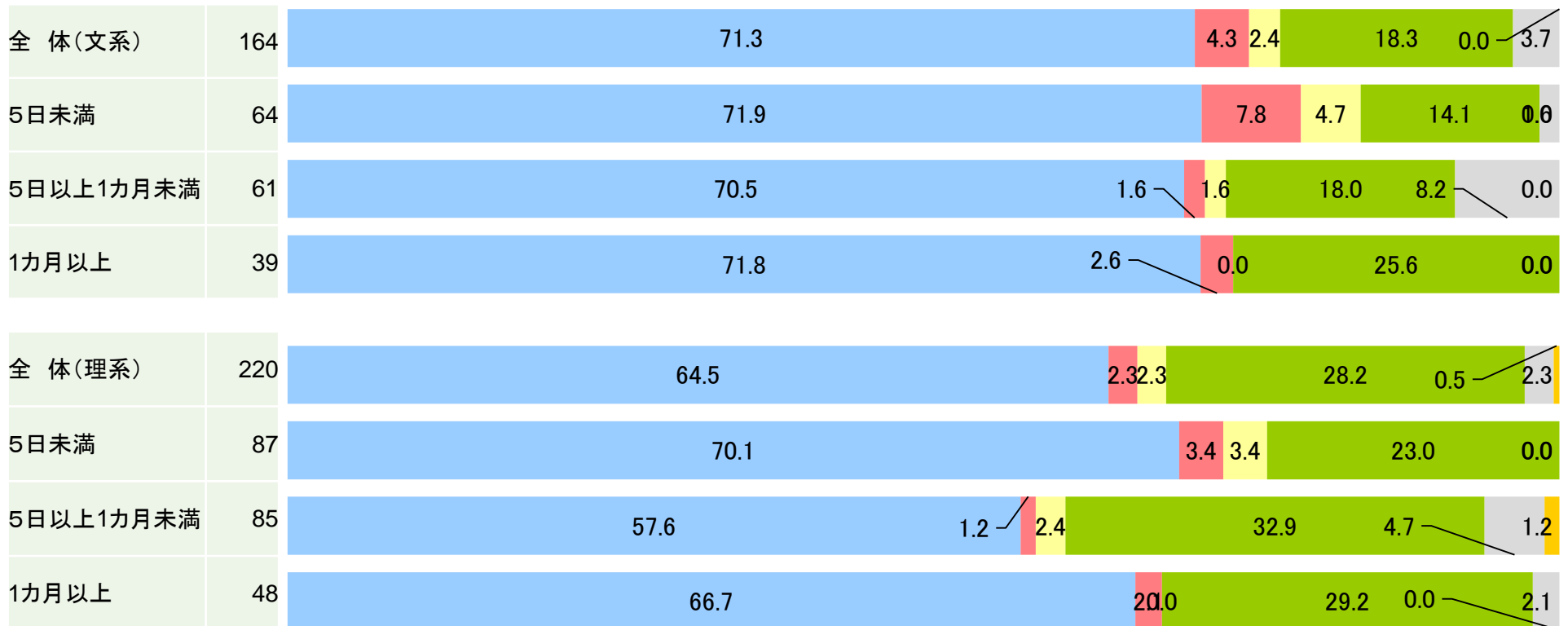
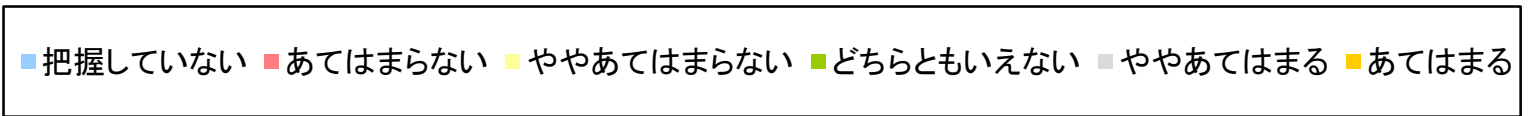
学修行動／アルバイトへの参加時間が増えた

- 大学は、把握していないという回答が多数であった。



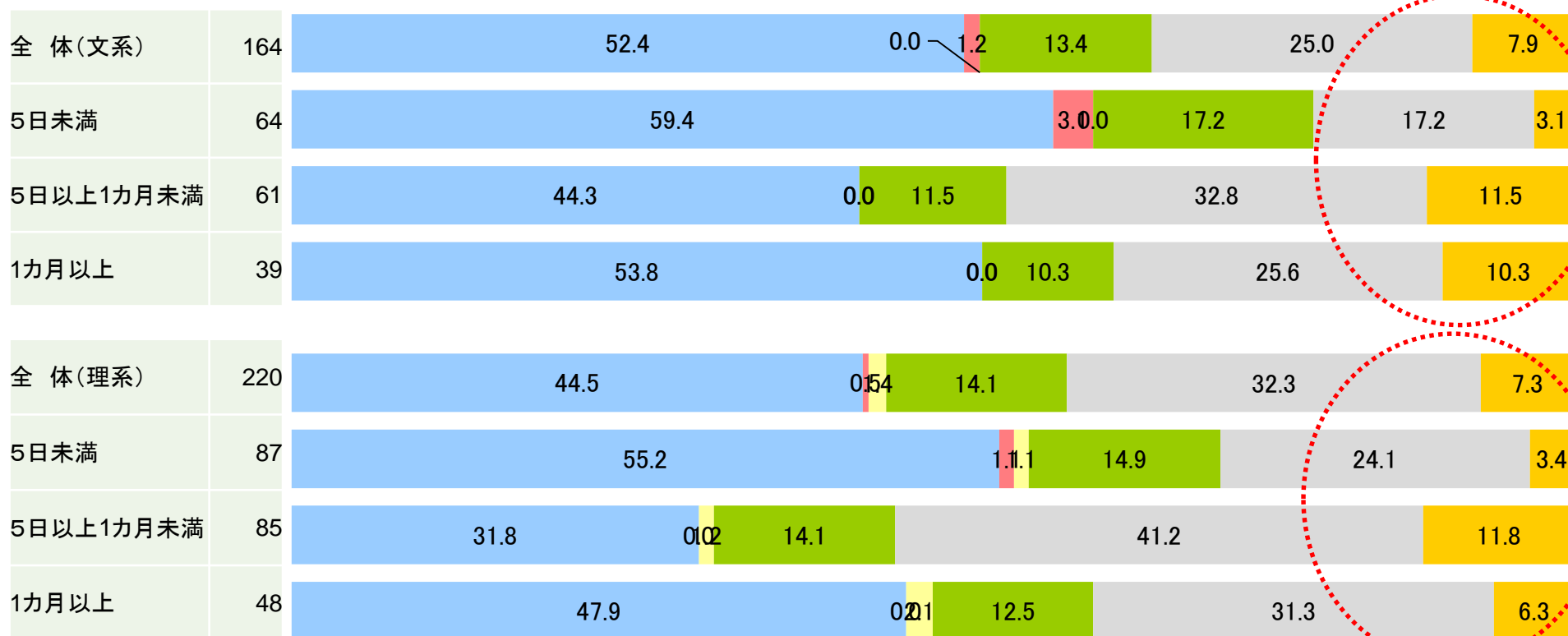
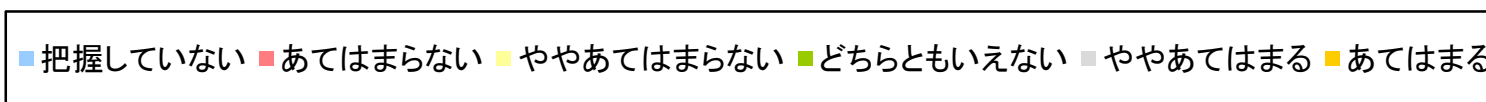
学修行動／ボランティアへの参加時間が増えた

- 大学は、把握していないという回答が多数であった。



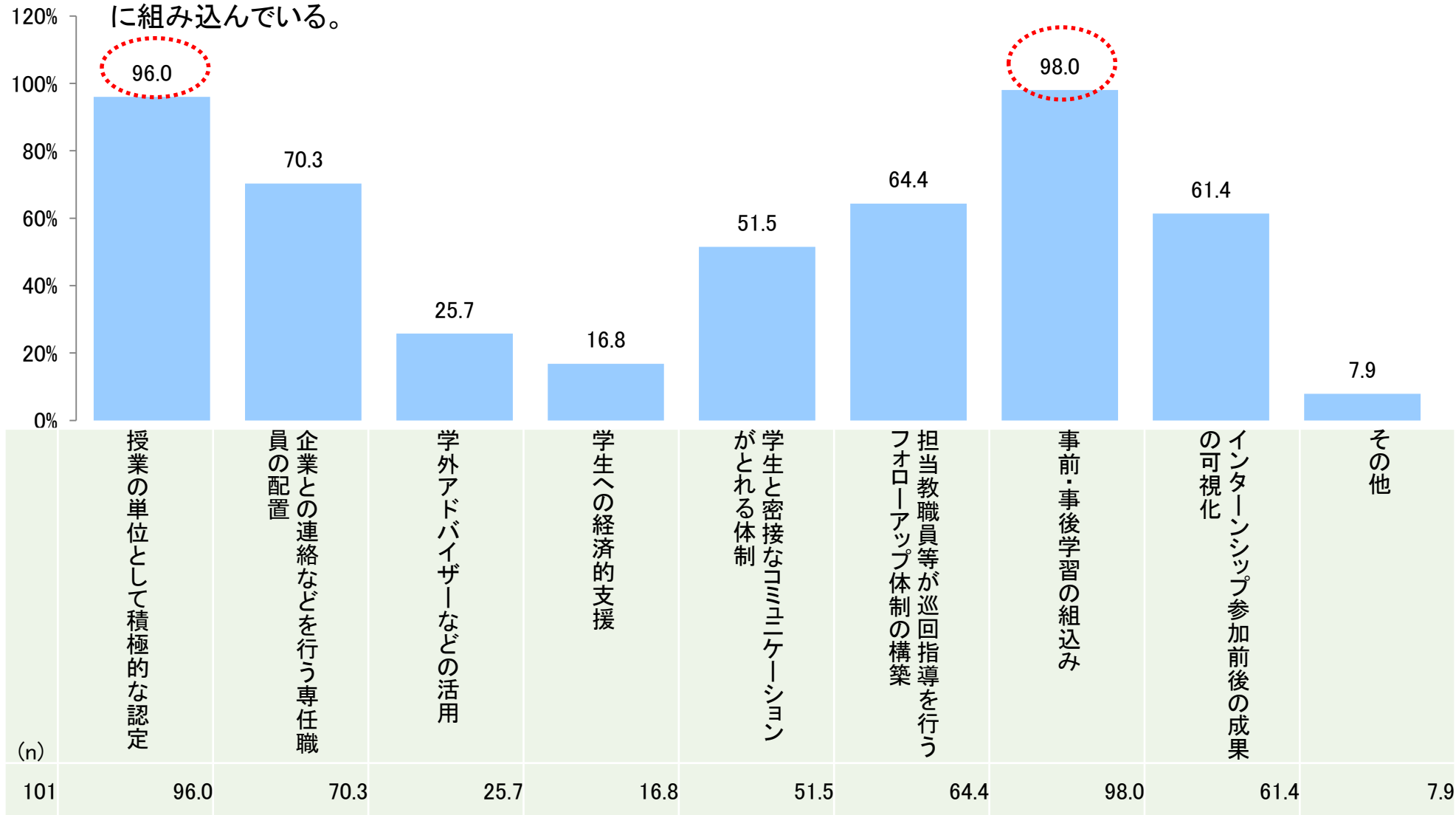
学修行動／就職活動に対してポジティブなイメージを持った

- 把握していないという回答が多数であったが、把握している大学の中では、文系・理系双方とも、日数が長くなるほど就職活動に対するポジティブなイメージを持ったという回答の割合が増えた。



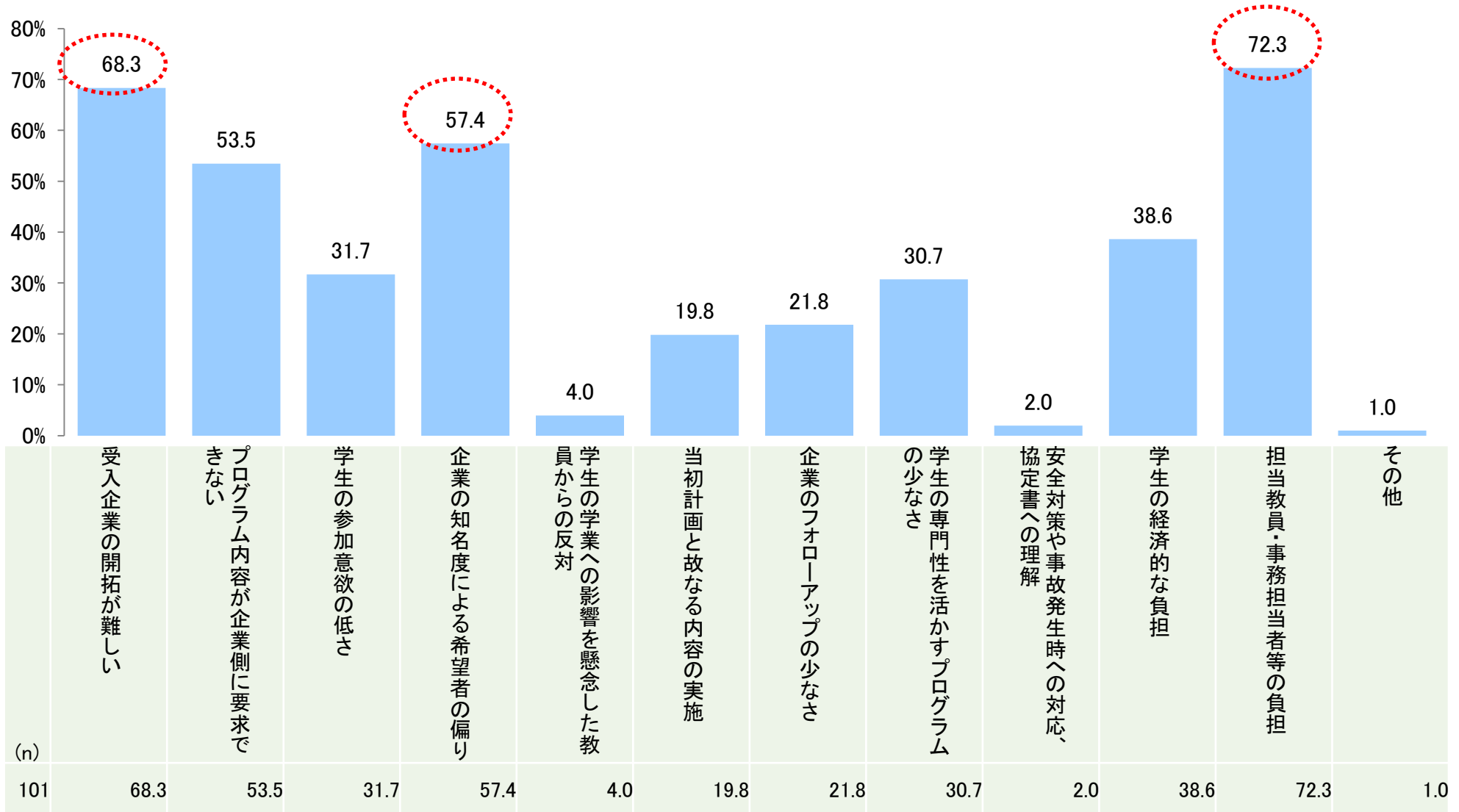
教育課程に位置づけられた5日以上のインターンシップにおいて 特に工夫している点

- 大学では5日以上のインターンシップを積極的に単位として認定する傾向にあり、事前・事後学習を積極的に組み込んでいる。



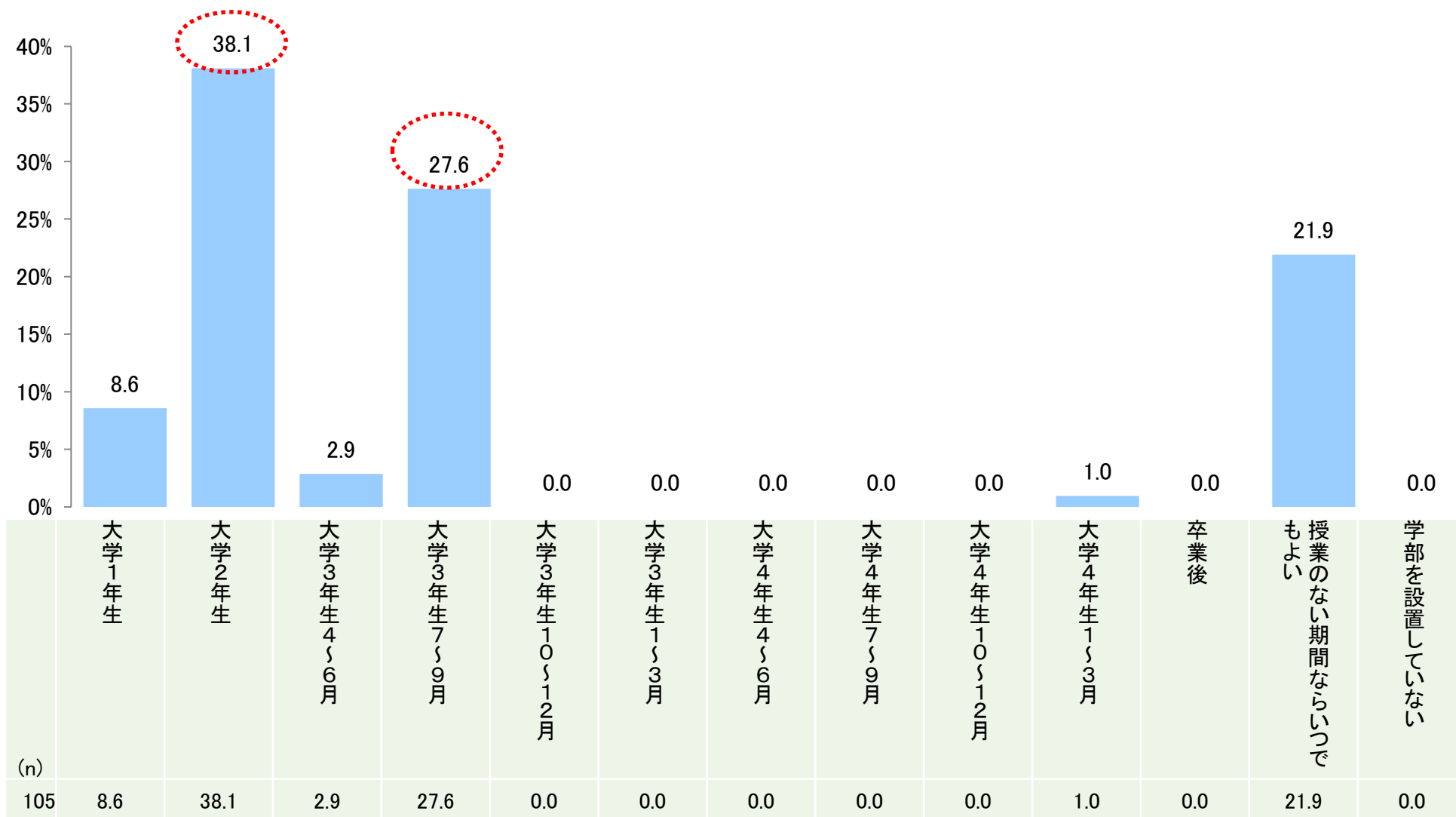
教育課程に位置づけられた5日以上のインターンシップを実施、運営する際の課題

- 担当教員や事務担当者等の負担を感じる大学が多くあり、受入企業の開拓に難を抱える大学が多い傾向にある。また、企業の知名度によって希望者が集中してしまっている傾向がある。



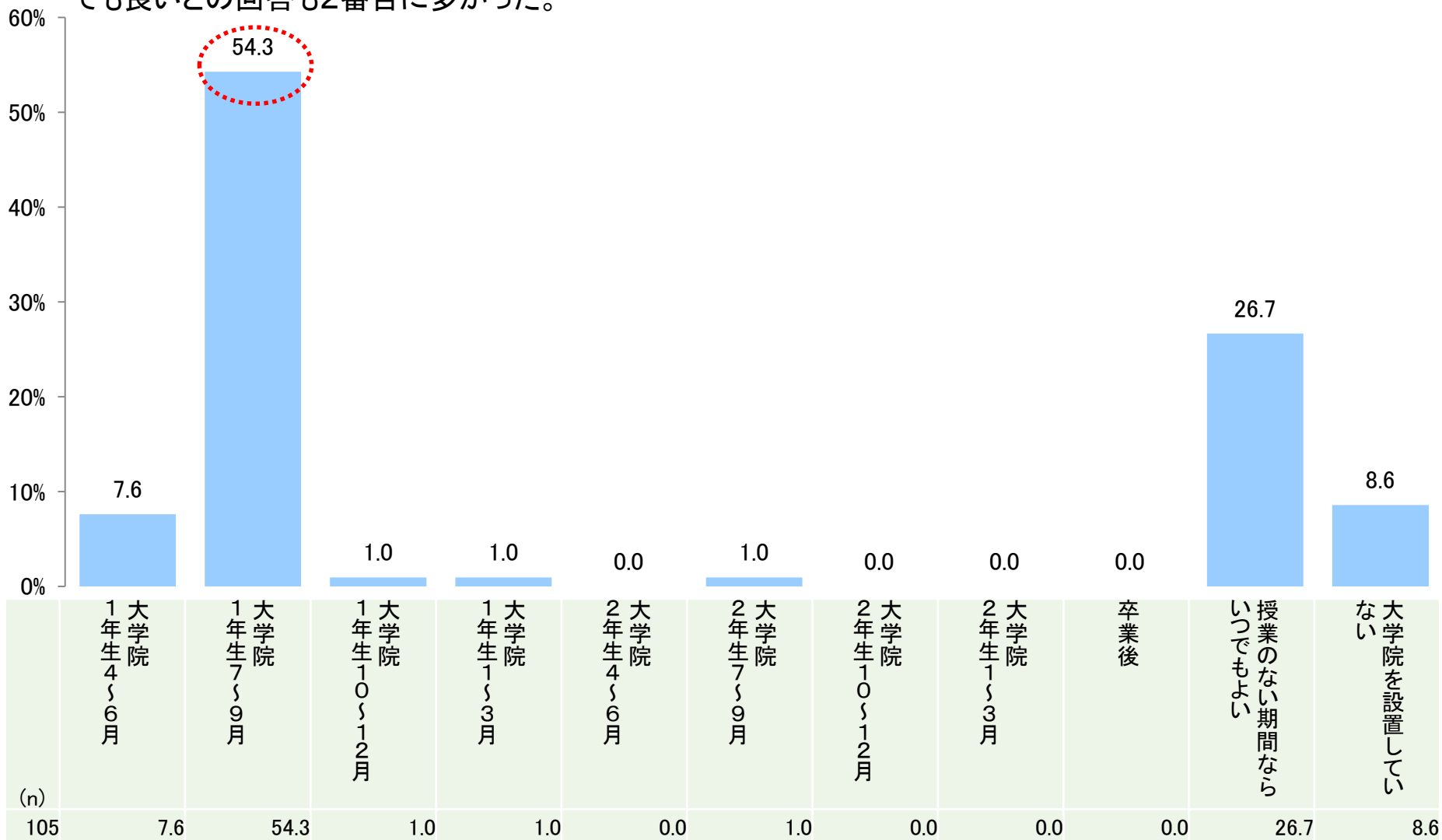
インターンシップの理想的な参加時期(学部段階)

- 大学で学んだ知識等を社会で活かすとともに、今後大学で学ぶ内容を決定するうえでは、インターンシップの参加開始時期は2年生が望ましいと考えるものが多い。次いで、3年次の夏休み期間中など、授業への影響が少ない時期を希望する意見が多かった。一方で、授業のない期間ならいつでも良いとの回答も3番目に多かった。



インターンシップの理想的な参加時期(大学院段階)

- 大学で学んだ知識等を社会で活かすとともに、今後大学で学ぶ内容を決定するうえでインターンシップの参加開始時期は大学院1年生7～9月が望ましいと考えるものが多い。一方で、授業のない期間ならいつでも良いとの回答も2番目に多かった。



調査結果から得られるインターンシップの効果に関する示唆のポイント

- ①大学では、就職に関連して実施される企業主催のインターンシップの参加による学習への影響等について把握は困難。一方で、「興味関心のある内容に対する学習時間が増えた」「自らのキャリア観が明確になった」等の一部の項目においては、参加日数が増加するほど、正の効果が出るように認識している。(p3~13)
- ②インターンシップを教育課程に位置づけるためには専任職員を配置するなどし、科目の担当教員や、事務担当者等の負担に配慮することが望まれる(p15)。
- ③適切な実施時期については、インターンシップが学修行動に与える影響も考慮して、学部2年次や修士1年次など低学年での実施を希望する割合が高かった(p16,17)。